

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-134934

(P2002-134934A)

(43) 公開日 平成14年5月10日 (2002.5.10)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
H 0 5 K 5/02		H 0 5 K 5/02	D 4 E 3 6 0
A 4 5 C 13/30		A 4 5 C 13/30	N 5 K 0 2 3
H 0 4 M 1/02		H 0 4 M 1/02	C
			H

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-330745(P2000-330745)

(22) 出願日 平成12年10月30日 (2000.10.30)

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 渡邊 英夫

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1号 松下通信工業株式会社内

(72) 発明者 米川 治

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1号 松下通信工業株式会社内

(74) 代理人 100083954

弁理士 青木 輝夫

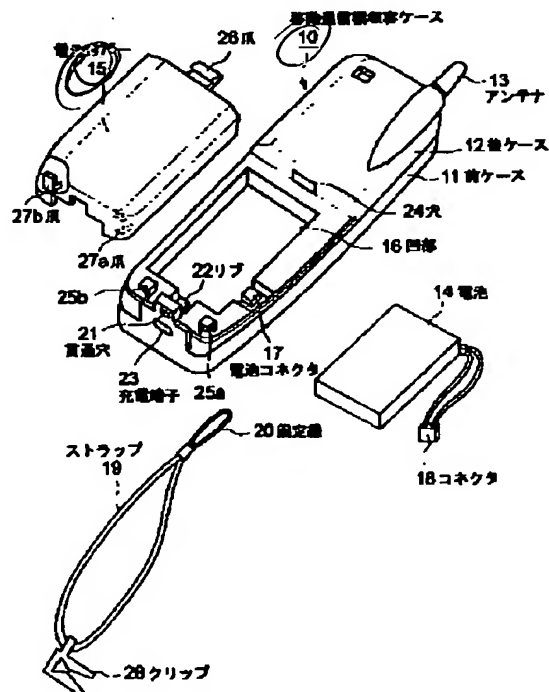
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 移動通信機用のストラップ固定構造

(57) 【要約】

【課題】 胸ポケットに固定したクリップを外すことなく通話できる移動通信機用のストラップ固定構造を提供する。

【解決手段】 携帯電話等の移動通信機収容ケース10にストラップ19を固定する移動通信機用のストラップ固定構造であって、ストラップ19の固定紐20を移動通信機収容ケース10の下端壁に取着したので、胸ポケットに固定したクリップを外すことなく通話できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 携帯電話等の移動通信機収容ケースにストラップを固定する移動通信機用のストラップ固定構造であって、

前記ストラップの固定紐を前記移動通信機収容ケースの下端壁に取着したことを特徴とする移動通信機用のストラップ固定構造。

【請求項2】 前記移動通信機収容ケースの下端壁には固定紐挿通用の貫通穴を設けると共に、前記移動通信機収容ケース内部において前記貫通穴に対して離間する位置に固定紐掛け用リブを形成して、前記ストラップの固定紐を前記貫通穴を挿通させた後、前記リブに係止することにより取着したことを特徴とする請求項1記載の移動通信機用のストラップ固定構造。

【請求項3】 前記固定紐挿通用の貫通穴と、前記移動通信機収容ケースの下端壁に設けられた内蔵電池充電用の充電端子とは所定距離離間して形成し、前記内蔵電池を充電する際前記ストラップが前記充電端子と別体の充電器側端子との間に介在しないように構成したことを特徴とする請求項1記載の移動通信機用のストラップ固定構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、移動通信機用のストラップの固定構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】携帯電話、PHS等の移動通信機にクリップ付きのストラップを取付ける場合図8、9、10に示すような構成が知られている。先ず、図8に示すように携帯電話等の移動通信機1は、ストラップ2の基端に取付けられたループ状の固定紐3を挿通するための固定穴4が本体上部に形成されている。固定穴4を本体上部に形成するのは、ストラップ2を手で持った際にアンテナを上にして保持できると共に、充電器にセットする際にストラップ2が邪魔にならないようにする為である。また、ストラップ2の先端部には、クリップ5が取付けられている。

【0003】一般に、携帯電話等の使用者は、本体にストラップ2を固定する場合、固定紐3を固定穴4に挿通した後、ループ状の固定紐3の中をストラップ2とクリップ5を通すことで固定している。また、たとえば携帯電話等を胸ポケット6に収納する際、胸ポケット6からの落下を防止するために、クリップ5で胸ポケット6に固定する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の移動通信機用のストラップ固定構造は、図9に示すように通話の際に、ストラップ2が移動通信機収容ケースの上端に固定されている為に、ストラップ2の長さ分しか移動通信機収容ケースを取出すことはできず、これまで

は耳元まで移動通信機収容ケースがとどかず、通話時にクリップ5を胸ポケット6からその都度外す必要があった。また、クリップ5を胸ポケット6に固定したまま通話するに十分なストラップ長さとする、携帯電話等を胸ポケット6に収納した場合、図10に示すようにストラップがポケット6の外に出易くなってしまい、見栄えが悪いものであった。

【0005】本発明は、従来のかかる点に鑑みなされたもので、通話時にクリップを外す必要がなく、また、胸ポケットに収納するときでも、自然にストラップがポケットに収納される移動通信機用のストラップ固定構造を提案するものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するため請求項1に記載の発明は、携帯電話等の移動通信機収容ケースにストラップを固定する移動通信機用のストラップ固定構造であって、ストラップの固定紐を移動通信機収容ケースの下端壁に取着したものである。

【0007】本発明によれば、ストラップの固定紐を移動通信機収容ケースの下端壁に取着したので、たとえばストラップの固定紐先端に取付けたクリップ等により胸ポケット上端に係着し、移動通信機収容ケースを胸ポケットに収容しておき、この状態で移動通信機が通信状態となった場合、移動通信機収容ケースを胸ポケットから引出して応答するのであるが、ストラップの固定紐が移動通信機収容ケースの下端壁に取着されていることから、移動通信機収容ケースの高さ分移動通信機収容ケースを引出すことができ通話時にクリップを外す必要がない。

【0008】また、胸ポケットに収納するときでも、ストラップが収容ケースの下端壁に固定された部分から自然にストラップがポケットに収納される。

【0009】前記目的を達成するため請求項2に記載の発明は、移動通信機収容ケースの下端壁には固定紐挿通用の貫通穴を設けると共に、移動通信機収容ケース内部において貫通穴に対して離間する位置に固定紐掛け用リブを形成して、ストラップの固定紐を貫通穴を挿通させた後、リブに係止することにより取着したものである。

【0010】本発明の移動通信機用のストラップ固定構造によれば、ストラップの固定紐を貫通穴に挿通させ、リブに係止するのみで取着できるのでストラップをリブに結び付ける必要がない。

【0011】前記目的を達成するため請求項3に記載の発明は、固定紐挿通用の貫通穴を移動通信機収容ケースの下端壁に設けられた、内蔵電池充電用の充電端子とは所定距離離間して形成し、内蔵電池を充電する際ストラップが充電端子と別体の充電器側端子との間に介在しないように構成したものである。

【0012】このような構成により、移動通信機収容ケ

ースの下端壁に取付けられたストラップが邪魔になることがないので、たとえストラップの固定紐を移動通信機収容ケースの下端壁に取付けたとしても移動通信機収容ケースにストラップを付けたまま充電できる。

【0013】

【発明の実施の形態】次に、図面を用いて本発明における実施の形態について説明する。

【0014】図1は、本発明の一実施例における移動通信機用のストラップ固定構造を示す分解斜視図である。ここで、移動通信機収容ケース10は、前ケース11、

後ケース12、アンテナ13、着脱可能な電池14及び、着脱可能な電池カバー15等から構成されている。

【0015】また、後ケース12には、電池14を収納するための凹部16と電池コネクタ17が形成されている。電池14は、電池コネクタ17と接続するためのコネクタ18を有している。

【0016】更に、後ケース12の下端壁には、ストラップ19の固定紐20を挿通するための貫通穴21と固定紐20を係止するためのリブ22及び充電端子23が形成されている。貫通穴21は、充電端子23とは所定距離、離間した収容ケースの裏面寄りの位置に形成されており、貫通穴21に固定紐20を付けたまま後述の充電器30にセットしても、接触不良になる虞がない。

【0017】リブ22は、貫通穴21の周囲で凹部16側に形成されている。また、電池を収納する凹部16の周囲には、電池カバー15と嵌合するための穴24、リブ25a、25bが形成されている。

【0018】電池カバー15は、先端に後ケース12の穴24と係合する爪26を、後端には、爪27a、27bが形成されている。

【0019】ストラップ19は、先端にクリップ28が取付けられると共に、基端部にループ状の固定紐20が取付けられている。

【0020】以上のように構成された移動通信機用のストラップ固定構造の使用法について説明する。

【0021】まず、携帯電話等の使用者は、移動通信機収容ケース10にストラップ19を取付ける場合、固定紐20を貫通穴21に通し奥のリブ22に取付する。この時、図1に示すように電池カバー15及び電池14を取り外した状態で行う。

【0022】次に、凹部16に電池14を収納し、コネクタ18を電池コネクタ17に接続する。電池カバー15は、穴24に爪26を、リブ25a、25bに爪27a、27bを嵌合させることによって取付ける。

【0023】図3から明らかなように、固定紐20は、凹部16に電池14が存在する限り、リブ22から外れることがない。また、固定紐20は、貫通穴21を通して取付けてあるので、ストラップ19に無理な力が加わっても、電池カバー15に力が伝達することなく、電池カバー15が外れることがない。

【0024】また、図4に示すように、ストラップ19が移動通信機収容ケース10の下端に固定されたので、ストラップ19を上端に取付けた場合に比べて、長さが確保でき、クリップ28を胸ポケット29に固定したまま通話することが出来る。

【0025】また、図5に示すように、移動通信機収容ケース10を胸ポケット29に収納するときでも、ストラップ19が自然にポケットに収納されて、見苦しくない。

【0026】図6は、本発明のストラップ固定構造を有した移動通信機用の充電器30を示す斜視図である。充電器30は、移動通信機収容ケース10を収納する収納部31と縦溝32と充電端子33が形成されている。

【0027】充電端子33は、収納部31の底部より突出して形成されており、移動通信機収容ケース10に固定紐20を付けたまま充電器30にセットしても、充電端子23と充電端子33の接触不良となることがない。

【0028】縦溝32は、移動通信機収容ケース10の幅より狭く構成されると共に、収納部31の底より深く形成されている。

【0029】以上のように構成された充電器30によって、本発明の移動通信機収容ケース10を充電する場合について説明する。

【0030】本発明の移動通信機収容ケース10を充電器30で充電する場合、収納部31に移動通信機収容ケースを収納すると、充電端子33が充電端子23と接触し充電可能となるが、固定紐20も縦溝32に収まるために、ストラップ19を移動通信機収容ケース10から外す必要がない。

【0031】なお、以上の実施例では、固定紐20の固定を電池カバー15を取付ける前の段階で行ったが、電池カバーに穴をあけて電池カバーを本体に取付けた後に固定できるようにしてもよい。

【0032】

【発明の効果】本発明によれば、携帯電話等の移動通信機収容ケースの下端壁にストラップの一端を固定したので、収容ケースの高さ分余分に引出す事ができ、胸ポケットの上端部に固定したクリップを外すことなく通話できる。また、携帯電話等をポケットに収納しても、ストラップの一端が移動通信機収容ケースの下端と共に自然に収納できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例における移動通信機用のストラップ固定構造を示す分解斜視図

【図2】同移動通信機用のストラップ固定構造を示す要部斜視図

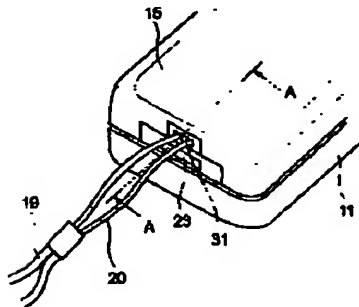
【図3】図2のA-A線断面図

【図4】同移動通信機用のストラップ固定構造を有した携帯電話の使用状態を示す説明図

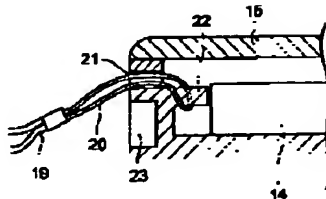
【図5】本発明の一実施例における移動通信機をポケッ

5	トに収納した状態を示す説明図	17	電池コネクタ	6
【図6】本発明のストラップ固定構造を有した移動通信機用の充電器を示す斜視図	18	コネクタ		
【図7】同充電器の使用状態を示す説明図	19	ストラップ		
【図8】従来の移動通信機用のストラップ固定構造を示す背面図	20	固定紐		
【図9】従来のストラップ固定構造を有する携帯電話等の使用状態を示す説明図	21	貫通穴		
【図10】従来のストラップ固定構造を有する携帯電話等の使用状態を示す説明図	22	リブ		
【符号の説明】	23	充電端子		
10	移動通信機収容ケース	24	穴	
11	前ケース	25	リブ	
12	後ケース	26	爪	
13	アンテナ	27	爪	
14	電池	28	クリップ	
15	電池カバー	29	胸ポケット	
16	凹部	30	充電器	
		31	収納部	
		32	縦溝	
		33	充電端子	

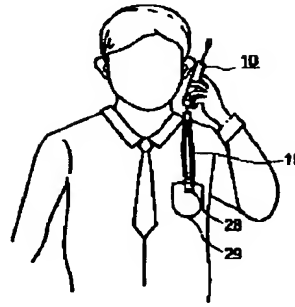
【図2】



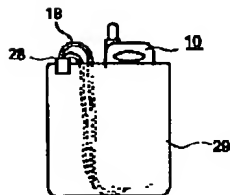
【図3】



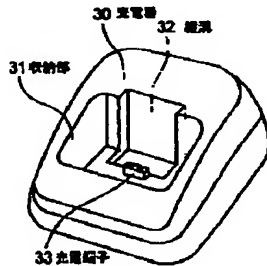
【図4】



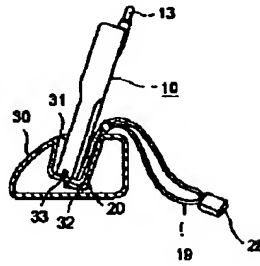
【図5】



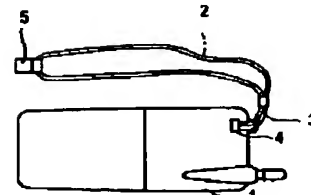
【図6】



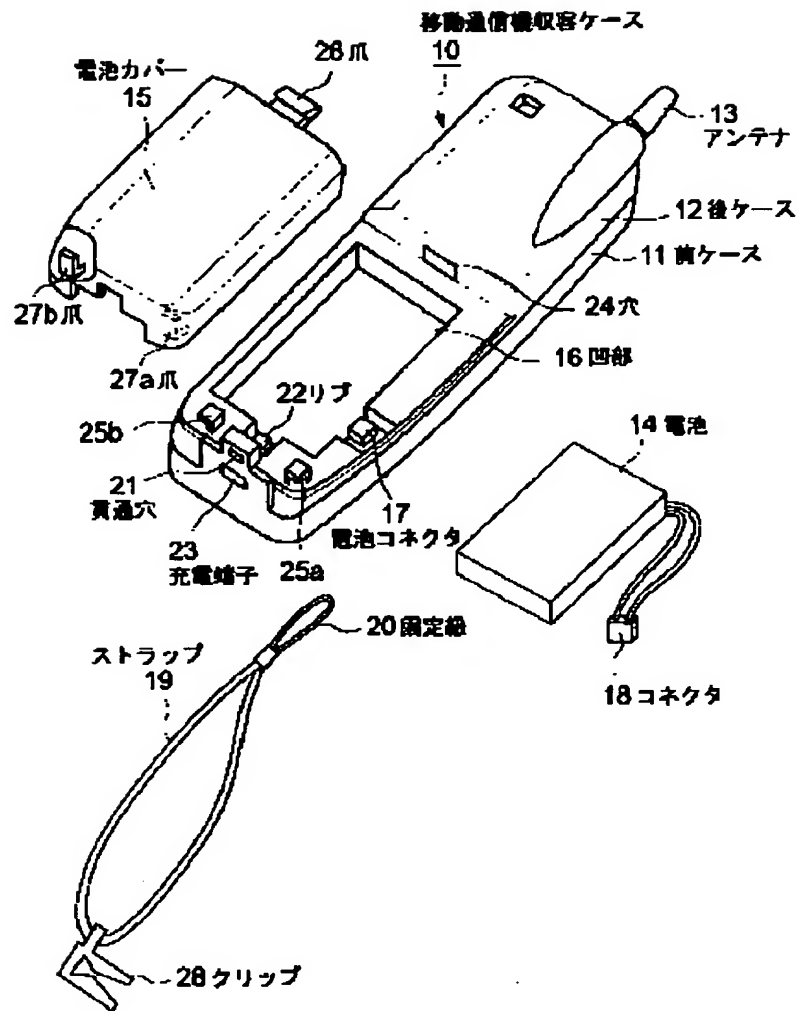
【図7】



【図8】



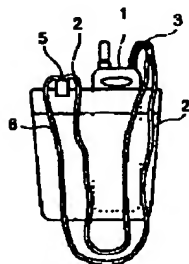
【図1】



【図9】



【図10】



フロントページの続き

(72)発明者 中島 章
神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1
号 松下通信工業株式会社内

(72)発明者 武藤 完志
神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1
号 松下通信工業株式会社内
Fターム(参考) 4E360 AB44 AB45 AD03 EA23 ED01
GA07 GB26
5K023 AA07 BB02 BB11 DD06 EE02
KK00 LL04 LL05 LL06 PP01